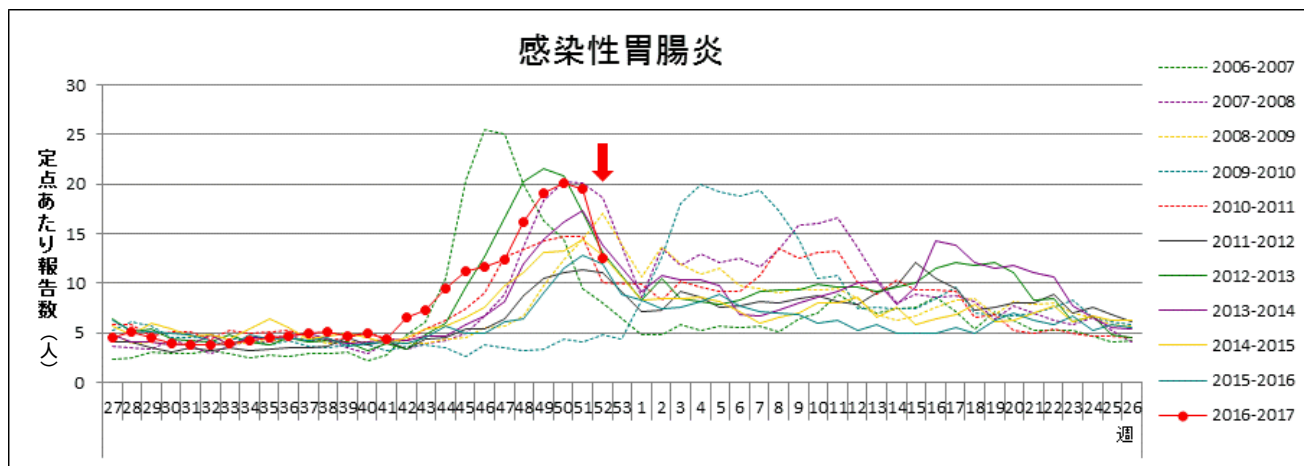


感染性胃腸炎週報 2016年 第52週 (12月26日～1月1日)

➤ 岡山県の流行状況

○感染性胃腸炎は、県全体で665名（定点あたり19.52 → 12.31人）の報告がありました（54定点医療機関報告）。

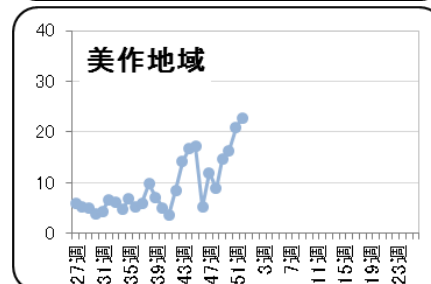
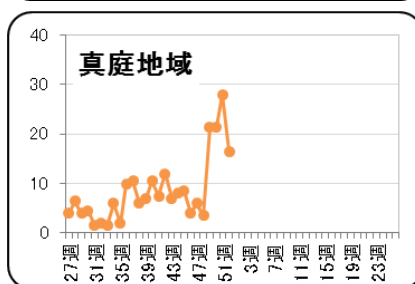
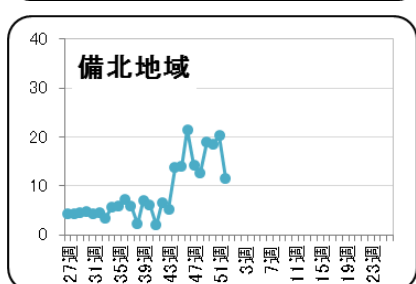
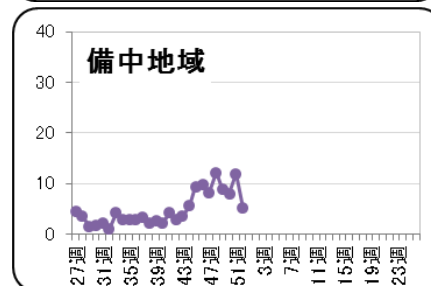
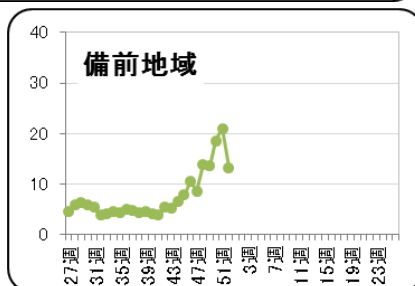
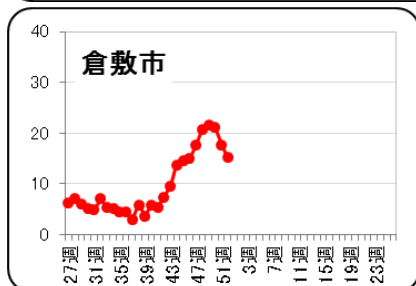
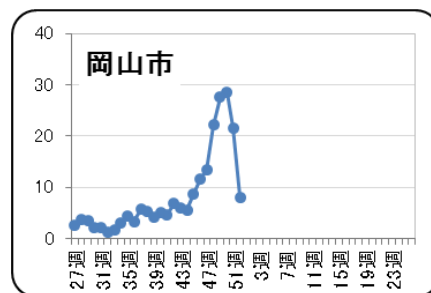
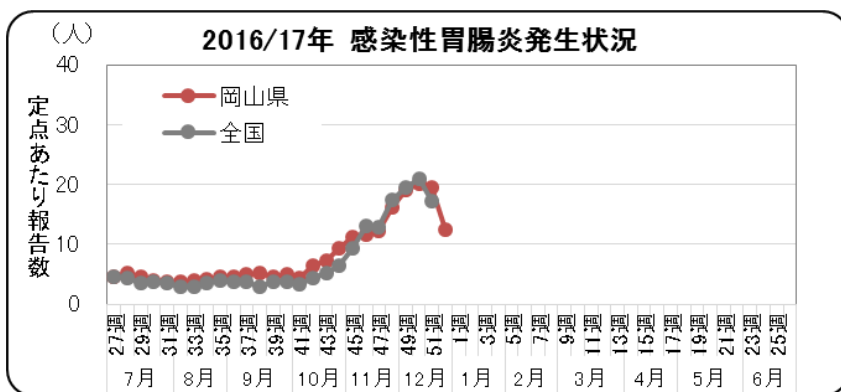


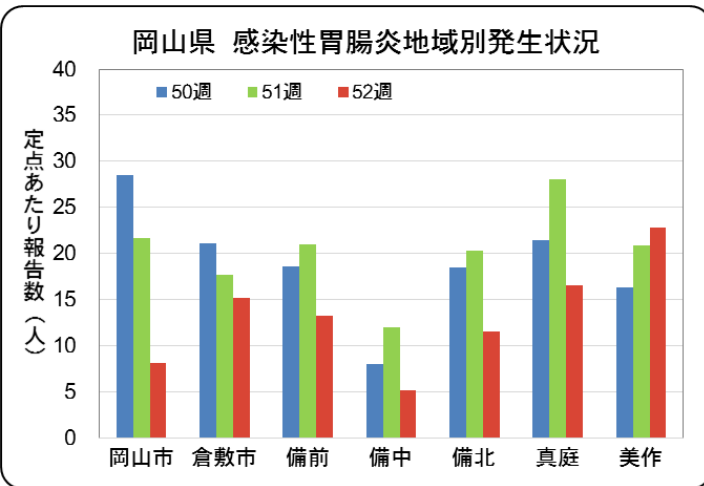
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、27週～翌年26週でグラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、県全体で665名（定点あたり19.52 → 12.31人）の報告があり、前週より減少しました。第41週（10/10～10/16）以降、患者の増加がつついていましたが、約2ヶ月半ぶりの減少となりました。患者数は減少したものの、依然として多くの患者が報告されています。

冬の感染性胃腸炎の原因は、ノロウイルスなどのウイルスによるものが多いと言われています。手洗いの徹底や、下痢便・おう吐物の適切な処理など、感染予防と拡大防止に努めてください。また、小さなお子さんや高齢の方は、おう吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診しましょう。

◆地域別・年齢別発生状況

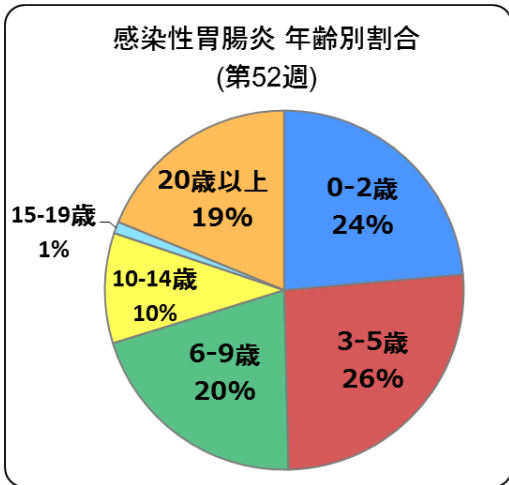




全県レベル3

レベル3		レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値
20	12	0< 20未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。



地域別では、美作地域 (22.83 人)、真庭地域 (16.50 人)、倉敷市 (15.18 人) の順で定点あたり報告数が多くなっています。多くの地域で患者が減少しましたが、倉敷市、備前地域、真庭地域及び美作地域では、発生レベル 3 が継続しています。

第 52 週年齢別割合では、3-5 歳 26%、0-2 歳 24%、6-9 歳 20% の順で高くなっています。

◆◆ ノロウイルスによる感染性胃腸炎に気をつけましょう ◆◆

予 防 方 法

1. **最も大切なことは、手を洗うことです。**
排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. **処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。**
おう吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理をするときは、使い捨ての上着や、マスク、手袋を着用し、下痢便、おう吐物をペーパータオル等で静かに拭き取りましょう。拭き取った後は、**次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)で浸すように床を拭き取り、その後水拭きをしましょう。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. **おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で 1 分間以上の熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウム**(*家庭用塩素系漂白剤でも代用可)**での消毒が有効です。**
おう吐物や下痢便で汚れた衣類は、ウイルスが飛び散らないように汚物を除去し、洗剤を入れた水の中で静かにもみ洗った後、熱水洗濯か次亜塩素酸ナトリウムで消毒をしましょう。
4. **食品は、中心部まで十分に加熱しましょう。(中心部を 85～90℃で 90 秒間以上)**
二枚貝の生食を控えましょう。中心部までしっかり加熱すれば安心です。

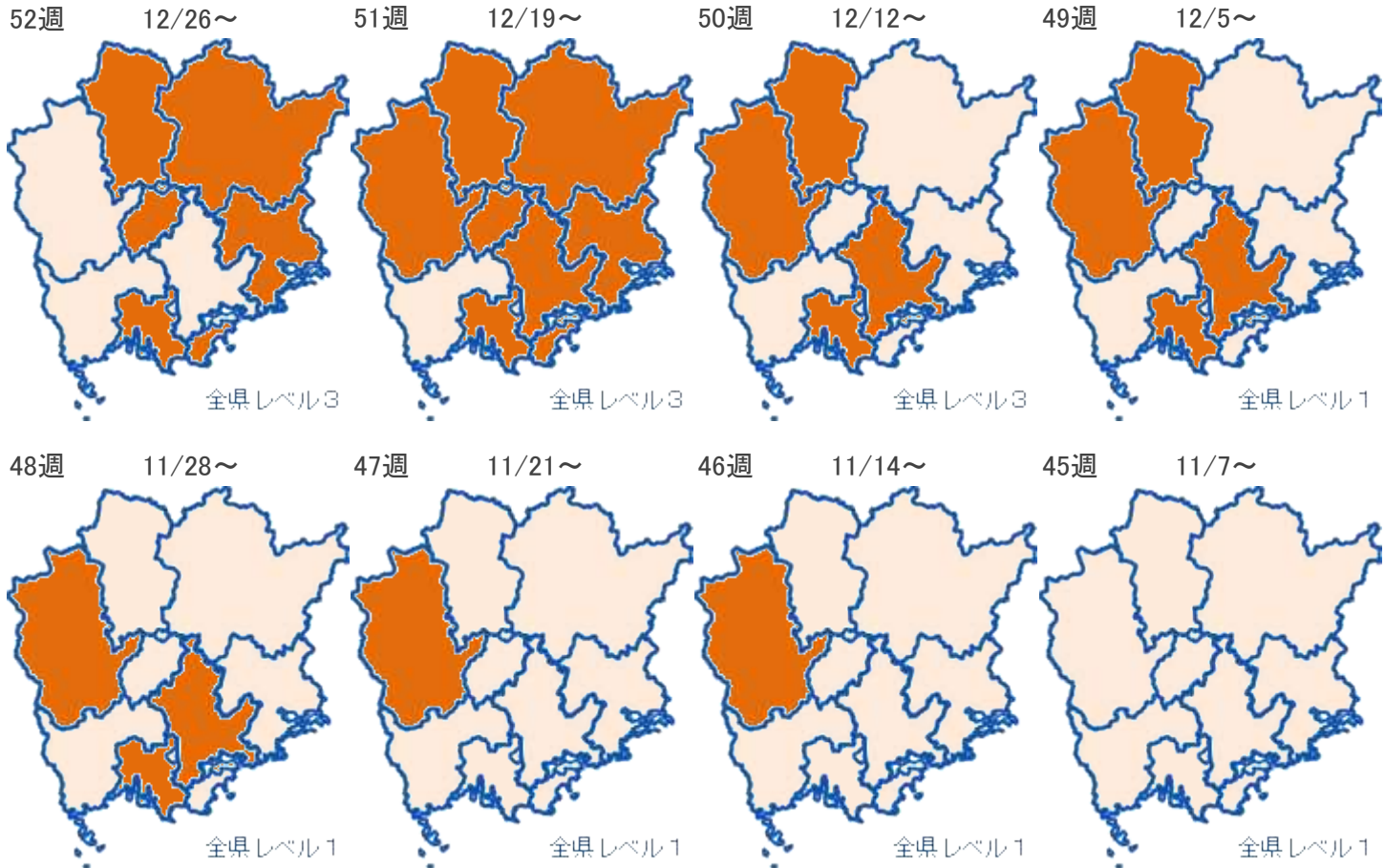
※塩素系漂白剤を使用する際には、「使用上の注意」を確認しましょう。



岡山県地区別 感染性胃腸炎感染症マップ 2016年 52週

2017年1月5日

15:27:35



感染性胃腸炎

レベル3		レベル2	レベル1	報告なし
開始基準値	終息基準値	基準値	基準値	基準値
20	12		0 < 20 未満	0

レベル3の開始基準値を一度超えると、終息基準値より下がらないとレベル3が継続されます。